

10年生入試問題サンプル

問題文

グローバル格差が生み出す世界では、経済的な豊かさにもとづく権力だけが人類の繁栄と平和を実現する基準になっているわけではない。富裕層、ないしは「西洋」の価値観や認識が基準となつて、世界の人びとに優劣がつけられてきた。これは、富裕国や国際機関が、低所得国で生じている問題を、グローバリゼーションの結果ではなく、その国・地域の「後進性」に起因するものとして理解してきたことから①メイハクである。これにより、たとえば貧困や紛争をはじめとした問題は、途上国が②克服すべき後進性の課題として語られてきた。その象徴が「アフリカ」であり、「アフリカ」と言う言葉を聞くと、貧困や紛争のイメージが即座に想起されるメカニズムが、すっかりできあがっている。このような国際協力の枠組みや基準では、グローバル格差が生み出す負の感情、そしてそれにともなう^{あつれき}軋轢や暴力、特定の人びとの困難を解決できない。

＊1^{あつれき}軋轢……人の仲が悪くあい争うこと。不和。

（友松夕香『グローバル格差を生きる人々―「国際協力」のディストピア』）

問い

問1 一線①「メイハク」②「克服」のカタカナを漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問2 一線「経済的な豊かさにもとづく権力だけが人類の繁栄と平和を実現する基準になっているわけではない」という部分について、「経済的な豊かさ」だけではないとしたら、他に何が基準となっており、その例として、富裕国や国際機関がどのような行為をしてきたと述べていますか。本文の言葉を使いながら説明しなさい。

問3 「グローバル格差」は様々な問題を生み出すとされています。そのうち筆者が重視している「負の感情」は、どうして問題になってくると思いますか。具体的な例を挙げながら、あなたの考えを100字以内で説明しなさい。